

ニンフェール第10回公演『東洋と西洋の絃』7/20(日) @5PM 一般 3,500円

～ギターの佐藤紀雄さんと箏の木村麻耶さんを迎えて：インタビュー第1弾～



今回のコンサートは、ニンフェールを立ち上げて10周年目となる記念すべき公演となります。ニンフェールは、10年前、7年間のニューヨークでの海外生活から帰国した作曲家の伊藤美由紀と、同時期にドイツから帰国した作曲家の大村久美子により結成されました。今回は、東京を中心に国際的に活躍されている佐藤紀雄さんと木村麻耶さんに、ニンフェール初登場していただきます！なぜ東京でなくて名古屋！って関東地方のファンの方々ががっかりされるくらいビッグなアーティストの登場なんです。第1弾は、佐藤紀雄さんの貴重なインタビューです。こちらもコンサート前のお得な情報です。

♪名古屋というところを思い浮かべますか？

名古屋で思い浮かぶのは、それほど多くは無いですが、これまでに行なった印象深い演奏会の事ばかりです。ギターのソロのコンサートこそ行ってはいませんが、愛知芸術文化センターにアンサンブル・ノマドで招かれ楽しい企画に参加したこと、いまは亡き才能あふれる作曲家江村哲二さんと一緒にレクチャー・コンサートをしたこと。また最近では名古屋芸術音楽大学の作曲の教師の方たちと沢山の仕事で一緒に過ごしたことなどなど。どれも名古屋ならではの特別な経験をさせて頂いています。

♪ギターを始められたきっかけは？

私が10才くらいの頃、近所でギターが流行っていて長兄がその仲間に入っていたのですが、兄の目を盗んでギターをいじっているうちにその何とも言えない音色の虜になってしまったのです。音楽の基礎など全く無かったので数年間は知ってるメロディーの音を指板の上で探しながら弾いていました。ある日兄にギターを弾いてる現場を見つけてしまったのですが、自分のレベルをはるかに超えてしまった僕に泣く泣くギターを譲ってくれたという武勇伝もありました。

♪クラシックファンのお客様のなかには、弦楽器という とヴァイオリン、チェロに馴染みのある方が多いと思 います。ギターの魅力とは何でしょうか？

弦楽器というと同時にメロディー楽器というイメージがあると思いますが、ギターは確かに弦を弾く楽器ですが、ピアノやチェンバロのような鍵盤楽器をのぞけばメロディーと伴奏を同時に演奏出来る唯一の楽器です。ヨーロッパではピアノが台頭する以前はリュートやギターがアンサンブルの中心におりその後にはピアノの役割を担っていました。現在でもルネッサンスやバロックのアンサンブルの中心にはリュート奏者がおり指揮者の役割をしています。今ではギターほど幅広く様々なジャンルの音楽でなくてはならない楽器はないでしょう。路上ライブや演歌はもとより、世界各地の街々でその地域の音楽を歌い奏する時必ず携帯されているのはギターです。これほど手軽な楽器が一方で芸術的にも技術的にも大変高度なコンサート作品をも演奏しているというのは奇跡のような楽器だと思います。僕が難しい現代曲を演奏するためにギターを抱えて街を歩いている時でも、路上ライブの若者と目が合うと何となく目配せし仲間意識をもつそんな楽器です。

♪ギターで現代作品を演奏されることになったきっかけはあるのでしょうか？

10代の頃、小原安正ギター教室に通っていましたが、その仲間たちで新しい音楽に目覚めていったのです。そこで音楽のみに関わらず色々な新しいことへ近づいてきました。毎回ギターのレッスンのあとは仲間同士で様々なことについて喧々諤々の議論に花を咲かせていました。現代音楽への興味は音楽を仲立ちとしてはいても、もっと広い興味が根底にありました。その仲間の一人はとうとう物書きになって音楽の友社と春秋社から4冊もの本を出したし、他の一人は早くからドイツに移り、当時の日本では誰も知らなかったシュタイナー学校の教師と結婚し様々な新しい考えを私に教えてくれました。私が演奏を始めたころは現代作品を演奏するギタリストはいませんでしたから、幸い沢山の作曲家から重宝されました。その御蔭で武満徹さんを始め素晴らしい作曲家の方たちと親しくさせて頂き、沢山の経験をさせて頂くことが出来ました。武満徹さんで行ったフランス、アメリカ、イギリス、オーストラリアなどの旅行は忘れられない良い思い出です。今回も武満徹編曲の歌を演奏しますが、演奏の度に武満さんが照れながら歌う姿が目に見えます。今回もきっとそうでしょう。

♪箏との二重奏を始められたきっかけは？

私が通っている桐朋芸術短期大学に12年前にギターで来た時、同時に日本音楽科も開設されたので、そのころから邦楽器は身近なものでした。お琴の野坂先生はとても気さくで、また好奇心が人一倍強い方で最初からギターと邦楽器とのアンサンブルに積極的だったのが大いに影響していたと思います。箏に限らず、ギターと尺八、ギターと三味線、ギターと邦楽器との大きなアンサンブルなど沢山の試みをしてきました。今回の木村さんとは、東京のセルバンテス文化センターで行われた企画でご一

緒して以来、気も合うこともあって良く演奏しています。彼女の技術はピカイチですし僕の無理難題をなんの抵抗もなく受け入れてくれるのでありがたい存在です。

♪今回のプログラムには、新作を含んだギターの為の現代音楽作品が4作品含まれています。クラシックを聴くのは好きだけれど、現代音楽は難しいイメージで躊躇してしまうお客様に、アドバイスをお願いします。

始めて聴く音楽作品は現代曲でなくても難しいと思います。それは、音楽作品は何かの表現であることが殆んどで、聴く人はどこかその謎を解くために音楽を聞いているところがあると思います。そして、何を表現しているかの謎が解けないと、難しいと感じてしまうのは当然ですね。それはクラシック音楽でも同じです。ただ、クラシックの場合は聞き慣れた和音や旋律なのであまり抵抗が無いのかも知れません。逆に言うと、現代曲では聞き慣れた和音や表現が利用されていないだけ、未知の経験・体験が約束されています。それは先入観を持たずに自由に聞けることを意味しています。曲目解説に書かれた、作品に込められた内容を思いながらも最後は聞いている皆さんそれぞれが作品の中の聞きどころを発見する楽しみを味わっていただきたいです。これはクラシック音楽では味わえない楽しみなんです。皆さんが感じた事が演奏している私たちや、もっと言えば作曲家自身の思いとかけ離れていたとしても全く構いません。それはそう感じたことが一番正しいのであって誰にもそれを否定することは出来ないのですから。どうぞ、ご自分の感性で自由に楽しんで下さい。(聞き手：伊藤美由紀)

第2弾、箏の木村麻耶さんのインタビューは、次回に続きます。皆様のご来場、お待ちしております。